国　語【中学校第３学年】

正答の状況

年　度		平成３０年度		平成２９年度	
種　別		国語Ａ	国語Ｂ	国語Ａ	国語Ｂ
平均正答数	県	24.0問／32問	5.3問／９問	24.1問／32問	6.3問／９問
	全国	24.3問／32問	5.5問／９問	24.8問／32問	6.5問／９問
平均正答率	県	７５％	５８％	７５％	７０％
	全国	７６％	６１％	７７％	７２％

今回の調査結果から明らかになった成果と課題

成果１＜Ａ問題＞　目的に応じて文の成分の順序や照応，構成を考えて適切な文を書くこと

成果２＜Ａ問題＞　文脈に即して漢字を正しく書いたり読んだりすること

課題１＜Ａ問題＞　話合いの話題や方向を捉えること

課題２＜Ｂ問題＞　文章とグラフとの関係を考えながら内容を捉えること

成果が見られた問題の概要例

○成果１＜Ａ問題＞　設問番号　8　四　２

【学習指導要領における領域・内容】
〔第２学年〕伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)
イ　(ｳ)　文の中の文の成分の順序や照応，文の構成などについて考えること。

四　次の各問いに答えなさい。

1　次の言葉の意味として最も適切なものを、あとの1から4までの中から一つ選びなさい。

心を打たれる

1　遠慮する。
2　感動する。
3　一つのことに集中する。
4　あれこれと心配する。

2　「心を打たれた」を文末に用いた一文を書きなさい。なお、「心を打たれた」の主語を明らかにした上で、「誰（何）」の「どのようなこと」に「心を打たれた」のかが分かるように書くこと。

【設問の概要】
慣用句を用いて短文を作る。主語を明らかにし，「誰（何）」の「どのようなこと」に「心を打たれた」のかを明らかにして書く。

【平均正答率】

8　四　２	本県	全国	差	自校
	４５	２２	＋２３	

○　平均正答率４５％であり，全国平均のおよそ２倍の正答率であった。解答類型を全国と比較すると，正答条件の中の主語を明らかにして短文を作ることの割合が高かった。小学校段階から**短作文を作る指導の中で，主語の取扱い**を丁寧に行っていることが成果につながっている。

○成果２＜Ａ問題＞　設問番号8　一，二

【学習指導要領における領域・内容】
〔第２学年〕伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)ウ
(ｱ)　第１学年までに学習した常用漢字に加え，その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読むこと
(ｲ)　学年別配当漢字表に示されている漢字を書き，文や文章の中で使うこと

【平均正答率】

設問				本県	全国	差	自校
8	一	書き	タバねる（束）	７８	７９	－１	
			マク　　（幕）	７６	７３	＋３	
			ユルす　（許）	６９	７１	－２	
	二	読み	模型	９６	９６	０	
			凍る	９８	９８	０	
			磨く	９９	９８	＋１	
平　　均				８６	８６	０	

○　出題された漢字についての読み書き６問の平均正答率は８６％であり，全国と同程度にはある。今後も漢字の字体，字形，音訓，意味や用法などの知識の習得とともに**文脈に即して漢字を読んだり，書いたりできる**よう指導してほしい。

※　「許す」という**日常生活で頻出する語**について，本県の無解答率が２割を超えていたことには，特段の注意が必要である。生活語彙である語の確実な定着が望まれる。

課題が見られた問題の概要，問題点とその改善点　（Ａ問題）

課題が見られた問題の概要

▲課題１＜Ａ問題＞　設問番号 6 一

【設問の概要】
学級での話合いについて司会者の立場からメモをとり，話合いの話題や方向を捉えることができるか。

【メモの一部】

	〈方法〉	〈理由〉
・山下さん	くじ引き	公平 時間がかからない
・横井さん	グループごと	時間がかからない
・黒川さん	座りたい場所 重なったら相談	
・平野さん	仲のよい人のグループ 場所はくじ引き	明るくなる
・木村さん	先生が決める	

一　谷さんは、どのように【メモの一部】を書いていますか。次の1から4までのうち、最も適切なものを一つ選びなさい。

1　話し合いの目的に沿った発言に絞り、話の内容を短くまとめて書いている。
2　話し合いの目的からそれた発言も取り上げ、全て話したとおりに書いている。
3　話し合いの目的に沿った発言から、あとで質問したい内容を選んで書いている。
4　話し合いの目的からそれた発言も取り上げ、誰の発言かが分かるように書いている。

二　谷さんは、【メモの一部】を見て、黒川さんと木村さんに確認しなければならないことがあることに気付きました。【話し合いの一部】の［　　］で、谷さんはどのような発言をするとよいですか。「黒川さんと木村さんは、」に続けて、実際に話すように書きなさい。

【平均正答率】				
6 一	本県	全国	差	自校
	６６	７２	－６	

【学習指導要領における領域・内容】
〔第１学年〕Ａ　話すこと・聞くこと
オ　話合いの話題や方向を捉えて的確に話したり，相手の発言を注意して聞いたりして，自分の考えをまとめること《話し合うこと》

〈誤答傾向〉

正答	選　　択　　肢	類型（％）
◎	１と解答しているもの	６６
	２と解答しているもの	５
	３と解答しているもの	５
	４と解答しているもの	２３
	上記以外の解答	０
	無解答	１

問題点とその改善点

（※　中学３年国語の中で全国と最も差が大きかった設問である）

○　選択肢の２，４を選んだ生徒は，話合いの中での発表について，その**発表の主旨を捉えることができていない**。メモに取り上げた人物と取り上げなかった人物の違いとして，バスの中での活動が取り上げられており，話合いのテーマである座席の決め方とずれていることに気付けていない。

司会者として**話合いの目的に沿った発言と目的からそれた発言を整理すること**は，話合いを適切に進行する上でも重要なことである。

○　国語科の中で行う話合い活動が，学級活動で行われる話合い活動とは異なるということを明確にして指導するために，**指導事項を明らかにして話合い活動を行う**ことが重要である。活動が音声言語で行われるため，学びの過程を把握することが難しいため，学習が一過性のものになってしまう危険性も含んでいる。

そこで，**指導に当たっては，話合いの中で適宜メモをとらせ，学習のまとめでメモをもとにまとめたり，振り返ったりすることも重要である。また，ＩＣＴ機器を用いて学習を振り返り，大事な発言の場面を再生することで，その発言の役割を考えさせること**も一つの手段である。話合いの中で司会者としての役割，話し手としての役割，聞き手としての役割，評価者としての役割など経験させ，主体的に話合いに参加し，自分や集団の考えを深められるよう，話合い活動に取り組ませてほしい。

○　中学校Ａ問題において全国平均正答率と最も差が開いている領域が，話すこと・聞くことの領域であり，課題が継続している。現状を改善するため，国語科で学習したことを全職員に発信し，様々な場面での話合いを積極的に取り入れ，自分や集団の考えを広げ深める場を設定してもらうなど全校体制での取組を推進してほしい。

課題が見られた問題の概要，問題点とその改善点　（Ｂ問題）

課題が見られた問題の概要

▲課題２＜Ｂ問題＞　設問番号 1 一

【設問の概要】
文章とグラフとの関係を考えながら内容を捉えることができるか。

【平均正答率（％）】

	本県	全国	差	自校
1 一	４１	４６	－５	

【学習指導要領における領域・内容】
〔第１学年〕Ｃ　読むこと
イ　文章の中心的な部分と付加的な部分，事実と意見などとを読み分け，目的や必要に応じて要約したり要旨を捉えたりすること

〈誤答傾向〉

正答	解答類型	類型（％）
	１と解答しているもの	４４
	２と解答しているもの	8
◎	３と解答しているもの	４１
	４と解答しているもの	7
	上記以外の解答	0
	無解答	0

問題点とその改善点

○　平均正答率は４１％である。誤答である解答類型「１」を選択した割合が正答を上回った。本問題は，《年代別》のことについてどのように説明しているかを問う問題である。本文では，段落の冒頭を「全体では」，「年齢別に見ると」と記述している。**記述と，**《年代別》の**グラフを正確に結び付けて読む力**を育成してほしい。

○　文章とグラフとの関係を考えながら内容を理解することに課題が見られる。
　そこで，文章の構成や展開を適切に把握し，それぞれの図表などが文章のどの部分と関連しているかを捉えられるように指導を行っていく必要がある。
　また，**書き手が図表などを用いた意図や読み手に与える効果**について考えるよう指導するとともに，**実際に図表を用いて表現する言語活動**に取り組むことも大切である。
　その際，例えば，図表などが用いられた説明や記録の文章を読み，図表などが文章の中心的な部分，又は付加的な部分のどの部分と関連しているのかを確認し，互いに説明し合うなどの学習を取り入れたい。

○　**本問とＡ 5 二**ともに誤答であった生徒は，全体の２４％であると報告されている。ともに**文章と図表などを関連させて内容を捉える問題**である。自校の生徒の状況について確認し，文章と図表との関連について，再指導をお願いしたい。
　なお，グラフや図表の見方などの**指導に当たっては，社会科や数学科，理科など他教科等の指導と連携した指導ができるよう，本調査結果を校内全体で共有して取り組んでほしい。**

コラム②　調査結果の公表の在り方・・・工夫してみませんか

　調査結果に関しては，教育委員会や学校が，保護者や地域住民に対して説明責任を果たすことが重要です。一方，調査により測定できるのは学力の特定の一部分であることなどを踏まえるとともに，序列化や過度な競争が生じないようにするなど教育上の効果や影響等に十分配慮することも大切です。
　学力向上は，学校だけの取組ではなしえず，家庭の協力が必要不可欠です。各学校においては，上記のことに配慮しつつ，学力調査の結果から，把握した課題を家庭や地域と共有することが重要です。
　具体的には，学校が，ＰＴＡ総会や学校便り等で，家庭に対して具体的かつ適切に調査結果を説明し，家庭学習等の充実を依頼することで，学校，家庭，地域が一体となった取組につながります。是非，調査結果の公表の在り方を工夫してみませんか。